

くまりは
NISIT!
Nutrition Support Team

サルコペニア・栄養研究センター 栄養管理の書籍を発売しました

文：センター長／吉村芳弘

このたび2021年10月5日に熊リハNSTから栄養管理の書籍を発売しましたのでご紹介させていただきます。スタッフ皆で長い時間をかけて企画、執筆、校正した力作です。最初の出版社（金芳堂）との書籍企画の打ち合わせが2020年7月でしたので、企画から出版まで約15ヶ月の期間を要したことになります。個人的にも感慨深い一冊です。

現在のところ万病に効く薬というものは存在しません。栄養療法は万病に効く可能性があり、非常に重要な医療の土台です。本書はそんな栄養療法のトリセツ（取扱説明書）となる書籍です。Chapter 0、1、2では栄養療法を進めるうえで必ず知っておきたい基本の知識をコンパクトに解説し、Chapter 3、4では栄養アクセスや個別症例毎のより実践的な内容を、Chapter 5では多職種連携について解説します。

臨床栄養に既に携わっている、もしくはこれから従事する予定のある医療従事者すべての人の疑問点をサツと解決できるよう、栄養療法の基本から個別症例毎への対応法、多職種連携についてまで本書では解説されており、臨床における栄養療法のトリセツの如く末永く活用していただけたらと思います。以下、本書の概要をご説明します。

《書名》…サツとわかる！栄養療法のトリセツ

《編著》…吉村芳弘

熊本リハビリテーション病院

サルコペニア・低栄養研究センター

《著》…熊本リハビリテーション病院

栄養サポートチーム

《出版社》…金芳堂

《定価》…3,520円（A5判／216頁）

【目次】

Chapter 0 はじめに

” 1 栄養管理のキホン

” 2 栄養ケアの基本

” 3 栄養アクセスのキホン

” 4 栄養療法の進め方

” 5 栄養サポート・多職種での関わり方

付録／栄養管理に役立つリファレンス

【執筆者一覧】（熊本リハビリテーション病院）

- ・上野いずみ 管理栄養士
- ・工藤舞 管理栄養士
- ・嶋津さゆり 管理栄養士
- ・福島宏美 管理栄養士
- ・小堀加菜恵 看護師
- ・砂原貴子 看護師
- ・辻友里 歯科医師
- ・白石愛 歯科衛生士
- ・長野文彦 理学療法士
- ・備瀬隆広 理学療法士
- ・濱田雄仁 言語聴覚士
- ・松本彩加 薬剤師
- ・丸山葵 薬剤師
- ・下津衣美 臨床検査技師



【序文】

「主治医は誰だ!？」

私が外科のレジデントだった頃に、胃がんの胃全摘術のKさんを担当したことです。手術は無事に終了し、術後補助化学療法を行い、転移や再発などがないかを経過観察するために外来フォローしていました。手術から2年ほど何事もなく経過したある日、Kさんは若い娘さんが押す車椅子で私の外来にあらわれました。娘さんいわく、「先生、お父さん栄養失調じゃないですか？家ではほとんど寝ています。というか、どうやらうまく動けないんです。」娘さんの鬼の形相に私は言葉を失いました。急いでKさんに体重計に乗ってもらうと、目盛りは42kgを示していました。BMIで14.9kg/m²の重度の低体重です。カルテを確認すると2年前の術前体重は70kg超でした。Kさんに正面から向き合おうと、手足はやせ細り、頬はげっそりとこけていました。



私は一生懸命に胃がんの診療を行っていたつもりでした。しかし、私が外来でKさんを通して診ていたのは「胃がん」であり、患者さんとしての「Kさん」ではなかったのです。

この症例はすぐに外科のカンファレンスで提示され、NSTチエアマンであった外科部長から胃がん術後の栄養管理について厳しい指導を受けました。「主治医は誰だ？栄養管理ができない医師は主治医になる資格はない」とはっきり言われたのを今でも鮮明に覚えています。

栄養療法は医療の土台です。万病に効く薬はありませんが、栄養療法は万病に効く可能性があります。本書はKさんのような不幸な転機を迎える患者さんを一人でも救いたいという切実な願いから企画したものです。臨床栄養や病態別の栄養管理を専門的に解説する書籍は多いですが、本書のように「臨床でよく遭遇する疑問や病態症例」に焦点を当てた書籍は多くありません。また、初学者から上級者のすべての医療従事者を対象にした、いつでもすぐに参照できる、そして、そもそもどんな患者に栄養療法が必要かを明確に示した点是他書にはないものだと思います。私自身、「こんな書籍がほしかった」という思いをそのまま具現化できた嬉しく思っています。

本書の読者対象は臨床栄養に従事している、あるいはこれから従事するすべての医療従事者を念頭に置きました。各専門領域の最前線で活躍している仲間と疾患別やセッティング別に低栄養の病態の基礎をできるだけわかりやすく解説してもらいました。まさに「サツとわかる！」栄養療法の解説書です。一部のコラムなどには上級者向けの記述もありますが、繰り返し読むことで十分に理解が深まると思います。病態の理解なくして本質的な栄養療法はありえません。

どうか臨床現場における低栄養の予防と対策に本書が少しでも貢献できたら、と執筆者一同心より願っています。

2021年8月吉日 吉村芳弘

《あとがき》

担当編集者と装丁の打ち合わせをしていった時期にたまたま映画館に何度か足を運ぶことがありました。同じタイトルを3度も映画館で見たことは生まれて初めてでした。しかしながら、本書の表紙デザインが「シン・ヴァ」の影響を強く受けていることは胸のうちに秘めておくことにします。